

## 第2期（2018年度）事業計画書

（2018年8月1日から2019年7月31日まで）

定款第4条に定める事業の充実を図り、財団の管理運営を遺漏なく行い、本財団に対する関係各層のいっそうの理解を深めるため次のとおり各事業を実施する。

### 1. 助成事業 【 予算 55,610 千円 】

#### (1) 基礎科学（一般）研究に対する助成

世界に先駆けて生物学及び周辺の新分野を拓き得る先見性・独創性に優れた基礎研究、国や公的機関による助成がなされにくい基礎研究、及び任期切れ・定年等により継続が困難となる基礎研究に対して、総額 40,000 千円の研究助成を行う。研究助成の選考審査費用として 1,300 千円、年1回の授与式の開催費用として 700 千円、通信費等の諸経費として 490 千円、計 42,490 千円を計上する。

[ 予算 42,490 千円 ]

#### (2) 基礎科学（酵母）研究に対する助成

日本における酵母研究は長い伝統をもっており、本財団設立者大隅良典によるオートファジー研究を例に挙げるまでもなく、多くの生命現象の分子レベルでの原理解明に頻繁に用いられて多大な貢献をし、国際的にも高く評価される状況が続いてきた。しかし近年、酵母研究の拠点が急速に、かつ全国規模で失われつつある。酵母研究の底上げの必要性が極めて高い現状に鑑み、酵母の生理現象を対象とした基礎生物学的研究に対して、総額 12,000 千円の研究助成を行う。研究助成の選考審査費用として 670 千円、通信費等の諸経費として 450 千円、計 13,120 千円を計上する。

[ 予算 13,120 千円 ]

### 2. 研究者と社会との新たな連携を構築する事業 【 予算 7,320 千円 】

#### (1) 創発（※1）セミナー（企業経営者・研究者、大学等研究者との勉強会・交流会）

企業の研究開発においては、研究難易度の上昇、グローバルな競争激化、製品化スピードの要求といった厳しい条件の中で、異分野からの気づき、新しい着想の重要性が益々高まっている。一方、大学や研究所の基礎科学研究には、研究費の不足から存分に研究が進め難い状況にあっても、研究者たちの努力の結果、企業の研究開発のシーズとなりうるものが数多く眠っていると思われる。しかし、基礎研究者が企業の研究の実際を知る機会、あるいは、企業側が基礎研究の実際を知る機会は少なく、これまで相互の情報交換、交流が十分になされてきたとはいえない。

本セミナーでは、フロンティアを拓く基礎科学の先端的研究者と、企業の第一線の研究開発者が一堂に会し、基礎科学の論理的な展開や課題解決のための道筋について議論する中で、参加者同士が気づきを得ることを目指す。

本財団の最大の特徴であり強みは、基礎生物学領域で国際的な研究を展開している研究者たちが日本の基礎科学の発展を願って多数結集していることにあるので、単なる一方向の講演会ではなく、財団の活動に賛同する基礎研究者を交えて自由に意見を交わす場として、基礎科学と産業界の新しい協力関係構築を目指し、年10回開催する。

(※1) 創発：部分の性質の単純な総和にとどまらない特性が全体として現れること。物理学や生物学などで使われる用語「emergence」（発現）が語源

また、酵母研究について、企業研究者と大学研究者との情報交換・相互交流を推進するための酵母コンソーシアム（※2）を形成し連携構築をめざす。具体的には、年間10回の創発セミナーのうち3回のテーマは酵母関連とし、そのうち1回は酵母研究助成の授与とともに「大隅基礎科学創成財団 酵母コンソーシアムフェロー（以下、フェロー）」の称号授与式・交流会とする。

(※2) コンソーシアム

コンソーシアムとは、個人や一企業等では知識・技術・情報などの問題により、その解決が困難であるか不可能な課題等について、当該領域に関心のある複数者によってこれを実現する団体もしくはグループをさす。

講師謝金、旅費交通費、会場費等として6,600千円を計上する。

なお、交流会費は参加者に実費負担を求めることとし、参加費3万円のうち、27,000円はセミナー参加費、3,000円は交流会費とする。

[予算 6,600千円]

(2) 市民講座の開催（市民及び学生を対象とした基礎科学の普及啓発活動）

基礎科学の面白さや大切さを理解してもらい、科学技術の振興を支援する文化の向上及び地域社会への貢献に資するため、年2回、全国各地にて市民講座を開催する。

講師謝金、旅費交通費、通信費等として、360千円を計上する。

[予算 360千円]

(3) 次世代を担う小・中・高生と研究者とのふれ合いの集いの開催

次世代を担う小中高生に、基礎科学研究の面白さを研究者自らが語り、将来基礎研究者として活躍して欲しいという願いを込めて、年2回、全国各地で「小中高生と最先端研究者とのふれ合いの集い」を開催する。会場では、最先端研究者による講演のほか、実際に観察等を体験する機会とする。

講師謝金、旅費交通費、通信費等として、360千円を計上する。

[予算 360千円]

3. 事業推進【予算 8,867千円】

前記1及び2の事業を適切に運営するための事業推進費を設け推進する。

4. 管理業務【予算 14,126千円】

財団運営に係わる管理業務については、理事会、監事監査、評議員会を開催・運営するとともに、行政庁への届出等対応業務やその他の諸業務も適切に行う。

また、当財団の事業紹介や情報開示を積極的に行い、寄付金や会員募集に努める。

以上